

愛犬物語

井上 明彦*

Akihiko Inoue

世はまさにペットブーム。ペットフード工業会の調査によると、平成18年度全国の飼育犬数は12,089千頭と0～9才児人口11,508千人を凌駕しています。TV、映画、書籍でもペット、特に犬は大変な人気です。これは人間同士のコミュニケーションがとり難くなった社会が反映されているようです。これから犬を飼いたい理由の上位に「癒されそうだから」とあるのも競争社会に疲れているからでしょうか。本稿では我家を吹き過ぎたペットブームを愛犬物語と題して紹介したいと思います。

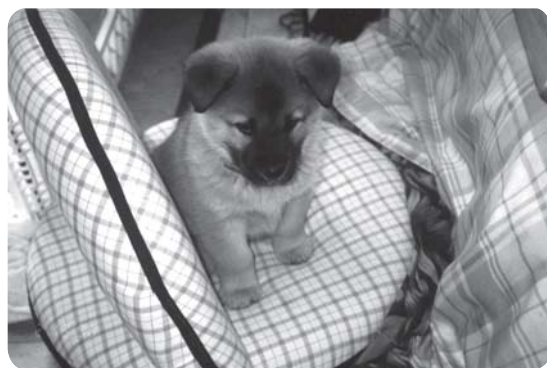
平成9年2月6日、会社に泊まり込みの翌日帰宅するとリビングの座椅子で子犬がくつろいでいた。これが娘が連れてきた犬か。前々日の朝、出がけに朝シャンをしている高一の娘に「犬を飼いたいのか？豆柴を買おうか？」と声をかけると、シャワーをしたまま「あの犬がいい」とだけ答えが返ってきて、会話は尻切れトンボになっていた。

当時はIHI横浜第1工場の製造課長だったが、事ある度に工場に泊り込む様な生活を送っていて、娘ともほとんど会話のない状態だった。娘の友達に農家の子がいて、その家の牛小屋に迷い込んで来た捨て犬を飼いたいと言い出していた。久々の娘との会話だったせいで、朝の甘い言葉になってしまった。そもそも私は犬が大嫌いで、子供の頃駄菓子屋の帰り道に貧相な雑種を飼っている印刷屋があり、その犬が道路に出てくると回れ右して遠回りで家に帰っていたものなのだが…

茶色の子犬は、鼻の周り尻尾の先が真っ黒で

両耳が垂れた姿で、真っ黒な目玉で帰宅した私を見つめていた。身長は50cm近く、体重も5キロ位はあって足も大きく、愛犬家の隣の奥さんから「大きくなりますよ」と言われたという。当時は犬に対する知識も無く、猫の額の庭付きテラスハウス（西洋長屋）で飼い始めてしまったのだ。かくして「愛犬物語」の始まりとなるのだが、帰宅する度に足に噛み付いてくるタクに閉口して、「この馬鹿犬を何とかしろ」と家人に怒鳴ることになる。そこで家人（女房と娘、息子2人）はできるだけタクを私の目に付かないように隔離していた。言い忘れたが、子犬には木村拓哉から一文字拝借して「拓」という名前が付けられていた。

このままでは、全然「愛犬物語」にはならないのだが、タクの身長が成犬に近くなった頃に転機が来た。私を憚ってタクは庭で飼われていたが、ある日気まぐれに庭に出て「お座り」「お手」を教えてみると、驚くことにあっという間にマスターしたのだ。今から思えばシェパードとの混血犬だから、これくらいの「芸」は朝飯前で何の不思議もないのだが、我家に初めて私の命令に口答

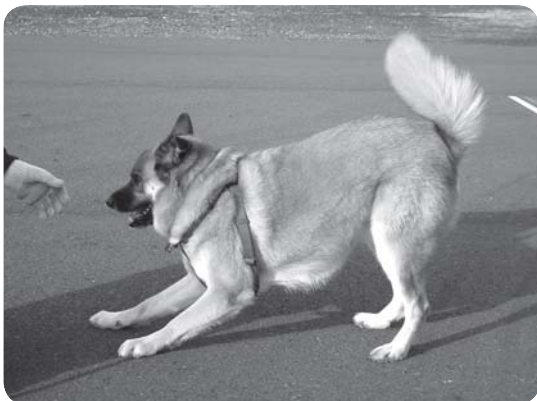


* 取締役 検査事業部長

えもせず素直に従う家人が誕生したのである。ここからタクと私の本当の「愛犬物語」の始まりとなる。

それからは休日の朝夕一時間ほどタクと散歩する係に任命された。この頃タクの住環境にも大きな変化があった。きっかけは激しい雷雨の日だった。タクは犬小屋にも入らず、ずぶ濡れになりながら庭からリビングに向かって吼え続け、家族を恨めしそうに見つめていた。雷が怖かったのである。それからは段々とリビングに入り込むようになり、終には目出度く座敷犬の地位を手に入れることになる。

成犬となったタクはシェパードの顔と秋田犬の堂々たる体躯で尻尾がぐるりと巻き上げられ、歩くたびに「背たたき」（尻尾が自分の背中をたたくこと）する雄姿となった。左耳だけが半折れたタクは本当に人懐っこい犬で、散歩中に知り合いの人に会うと、ゴロリと横になってお腹を出して撫でてくれと催促する。外観のいかつさと行動の可愛らしさのギャップが大きく、近所の犬好きの間ではすっかり人気犬となった。犬の散歩でも大型犬を連れていっていると、優越感があるもので、中小型犬とすれ違っても鷹揚に構えていられるものだ。犬同士では血統書の有無よりも体の大小の方が重要なようで、散歩コースでも大海に行く重巡洋艦の趣があり、流行のミニチュアダックスフンドやコーギーなどは自然と道を空ける風格だった。しかし温厚な性格で他の犬と争うことは全く



無かった。よく行く公園で並んでベンチに座ると顔の位置が同じ高さで、緑を吹き抜ける風を受けてじっと遠くを見つめる横顔がとても哲学的な威厳を感じさせた。

そんなタクにも困った癖があった。一つ目は犬の得意技、穴掘りである。狭い庭に大穴を掘り、掘り出した土が芝生を埋めて、あっという間に荒地になる。何度も芝生を張り直したのが毎回返り討ちにあった。穴の中には雑巾、パンに娘のピアスマまで隠されていて驚いたものだ。

二つ目は何でも食べてしまうこと、散歩中に拾い食いをする事だ。捨て犬だった為か、口に入るものは何でも食べようとしてしまう。ある日リビングでラーメンを食べ始めたところに電話が掛かってきた。電話を終わって振り向くと、ラーメンどんぶりに鼻を突っ込んだタクと目と目が合った。一瞬の躊躇の後、一気にラーメンを汁一滴残さず吸い込み尽くした。女房と二人、啞然とした後、大笑いするしかなかった。

その癖ドッグフードはあまり好きではなかった。餌の入ったボウルを咥えて振り回し、「こんなもの食えるか」と言わんばかりに、全部リビングの床に撒き散らす。その後一粒、一粒食べていくのだ。困った儀式を毎回繰り返していた。

いつからかタクは食卓の隣の椅子に並んで座って、毎日晚酌の相手をするようになった。焼き鳥を二人（？）で交互に食べながらビールを飲むのが至福の楽しみとなったが、これが原因で飼主・愛犬共々メタボになり、タクは30kgを超える巨体となった。

この間家族も進学、就職、病気など夫々色々な出来事があったが、タクは一家の守り神として家族の心を癒し続けていた。また、地域での繋がりが全く無かった自分も、近くの愛犬家同士のなかで「タクちゃんのパパ」と呼ばれるようになっていた。また家でも、娘からもタクとの散歩用にと父の日にはTシャツなどをプレゼントして貰えるまでに出世していた。毎年の年賀状も干支と無関

係にタクの写真となり、自己満足の押し売りの確信犯を続けていた。

そんな「愛犬物語」の最終章は思いの外早く、タク6才の平成16年にやって来た。

4月から元気がなく、よく吐くようになり、32kgあった体重が25kgにまで減ってしまった。当初、動物病院では暑さ負けと食事（人間の食べ物を与えていた）が原因と言われ、食事内容を指導された。その後大学病院の精密検査を進められたが、小康状態となったため受診せず、これが今日に至っても、女房と私の悔やみ切れない後悔となる。

9月に入り病状は悪化し、大学病院の診察を受けた結果、悪性腫瘍で腸が閉塞していることが分かり、21日深夜に長時間にわたる手術が行われた。癌が内臓全体に転移して、胸膜も炎症を起していた。腸の閉塞だけは解消したが、後もって2～3週間と言われてしまう。翌々日タクに面会に行くと、獣医とインターンに支えられて待合室に連れてこられた。お腹を真一文字に切開されたのに自力で歩いて来る、その生命力に圧倒された。面会時間が終わっても、タクは家族と離れまいとする。この後、家族全員がほとんど毎日面会に通った。担当医には最後は家に連れて帰り、家族で看取りたいとお願いしていた。静岡の大学に行っている次男も見舞いに来た。

10月4日 会社から病院に向かう途中で携帯電話が鳴り、娘が緊迫した声で「病院から電話、タクが危ない、直ぐに行って」と言う。タクシーを飛ばして病院に着くと、タクは診察台の上に横たわり、口に透明なホースを咥えさせられ呼吸と

心拍を続けていたが、既に意識は無く一目でタクの一生が終わっていることが分かった。しばらくして女房と娘が駆け付けて来た。「タクはお父さんには会えたの」女房の問い掛けに首を横に振る。後から駆け付けた長男と四人でタクの体をさすってやり、もう十分頑張ったタクを天国に送ってもらった。この夜は遺体をリビングに安置し、女房と子供たちはタクと一緒に寝た。

翌日タクと馴染みの人たちが弔問に来てくれた。みんな大泣きだ。秋雨の降る肌寒い午後、市の焼却場にあるペットの火葬場へタクを連れて行った。白い布に包まれた骨壺を胸に抱くと骨壺から熱が伝わり暖かい。まるでタクが生きていたときの温もりのようだった。

こうして我家の「愛犬物語」は終わりを告げた。タクは家族一人一人を癒すだけではなく、家族同士の絆を強めてくれた。あれから3年、タクの骨壺は今でも好きだった玩具と一緒にリビングに安置され、女房は毎日線香をあげている。狭い家だが、数えてみると大小とりまぜ24枚の写真が飾られている。



取締役
検査事業部長
井上 明彦

TEL. 045-784-6725
FAX. 045-784-6778

◆本 社 総務部 品質保証部	〒140-0014 東京都品川区大井1-22-13 米山ビル	TEL(03)3778-7900 FAX(03)3778-7950 TEL(03)3778-7909 FAX(03)3778-7951
◆営業統括部	〒140-0014 東京都品川区大井1-22-13 米山ビル	TEL(03)3778-7925 FAX(03)3778-7952
北関東営業所	〒321-0953 栃木県宇都宮市東宿郷3-2-18 高智穂ビル6階	TEL(028)637-7547 FAX(028)637-7629
中部営業所	〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅3-28-12 大名古屋ビル12階	TEL(052)583-6855 FAX(052)565-7709
関西営業所	〒541-0053 大阪府大阪市中央区本町4-2-12 東芝大阪ビル8階(株)IHI 関西支社内	TEL(06)6245-5491 FAX(06)6281-2186
九州西中国営業所	〒802-0001 福岡県北九州市小倉北区浅野2-17-38 コンダクト浅野第3ビル	TEL(093)511-3800 FAX(093)511-3900
◆技術研究所	〒235-8501 神奈川県横浜市磯子区新中原町1 (株)IHI 横浜事業所内	TEL(045)759-2927 FAX(045)759-2155
◆検査事業部		
金沢事業所	〒236-0004 神奈川県横浜市金沢区福浦1-9-4	TEL(045)784-6725 FAX(045)784-6778
第一検査部	〒140-0014 東京都品川区大井1-22-13 米山ビル	TEL(03)3778-7922 FAX(03)3778-7951
磯子事業所	〒235-8501 神奈川県横浜市磯子区新中原町1 (株)IHI 横浜事業所内	TEL(045)759-2280 FAX(045)759-2146
◆計測事業部		
金沢事業所	〒236-0004 神奈川県横浜市金沢区福浦1-9-4	TEL(045)784-6821 FAX(045)784-6893
磯子事業所	〒235-8501 神奈川県横浜市磯子区新中原町1 (株)IHI 横浜事業所内	TEL(045)759-2281 FAX(045)751-0357
◆研究開発事業部		
磯子事業所	〒235-8501 神奈川県横浜市磯子区新中原町1 (株)IHI 横浜事業所内	TEL(045)759-2136 FAX(045)759-2137
◆システム事業部		
霞ヶ浦事業所	〒300-0604 茨城県稲敷市釜井1720	TEL(0299)80-4010 FAX(0299)80-4040
設計開発部 第二グループ	〒140-0014 東京都品川区大井1-22-13 米山ビル	TEL(03)3778-7965 FAX(03)3778-7968
◆西日本事業部		
愛知事業所	〒478-0046 愛知県知多市北浜町11-1 (株)IHI 愛知事業所内	TEL(0562)31-8211 FAX(0562)31-8235
相生事業所	〒678-0041 兵庫県相生市相生5292 (株)IHI 相生事業所内	TEL(0791)23-3720 FAX(0791)24-2748
呉事業所	〒737-0027 広島県呉市昭和町2-1 (株)アイ・エイチ・アイ・マリンユナイテッド呉工場内	TEL(0823)25-1100 FAX(0823)26-2530
◆高嶋技研	〒919-0742 福井県あわら市瓜生29-2	TEL(0776)74-1111 FAX(0776)74-1112

IIC REVIEW (2007 / 10. No.38)

編集委員長 荒川敬弘

編集委員 中代雅士 久野昌平 佐藤秀一 庄司廣治

鈴木利昭 中西光夫 三上隆男 福田敬則

三船正純 萩原 実 茂田潤一

編集事務局 熱田美道

発行責任者 川嶋鋭裕

発行所 石川島検査計測株式会社

〒140-0014 東京都品川区大井1-22-13 (米山ビル)

電話：(03) 3778-7900 (代表)

印刷所 株式会社クロスワークス

〒135-0061 東京都江東区豊洲1-2-34 (丸石ビル)

電話：(03) 3534-3494

不許複製